

学力向上フロンティアスクール 中間報告書

都道府県名	静岡県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	浜北市立北部中学校					教員数
	1年	2年	3年	養護学級	計	
学級数	7	6	7	2	22	
生徒数	246	217	252	9	724	38

研究の概要

1. 主題

学力が向上するための授業づくりを目指して ~できた!わかった!やってみた!~

2. 内容与方法

(1)実施学年・教科

全学年・全教科（生徒の全人格は、全ての教科でつくられる。全ての教師に研修の必要性。）

(2)年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「基礎・基本」が定着するための授業づくりを目指して</p> <p>仮説 一人ひとりに応じたきめ細かな指導を工夫した授業を行うことで、基礎・基本が確実に定着するだろう。</p> <p>研究内容 方法</p> <p>(1)指導計画の工夫                  指導目標を明確にする。                  ア できるだけ一単位時間に一つとする。                  イ 評価できるよう、具体的に表す。                  指導内容を厳選し、基礎・基本を明確にする。                  ア 単元全体と一単位時間との関連をとらえる。                  イ 観点別評価項目の内容を押さえる。                  授業実践を通して年間指導計画の修正を行う。                  ア 基礎・基本の定着に迫る場面の授業公開をする。                  イ 生徒や教師の評価を生かして、年間指導計画の修正を行う。</p> <p>(2)一人ひとりに応じたきめ細かな指導の工夫                  指導方法・形態の工夫改善をする。(少人数授業・TT・グループ学習)                  生徒の思いや願いに応じた指導をし、一人ひとりを伸ばす工夫をする。                  体験的な学習・問題解決的な学習を展開する。                  生徒の学習意欲を高める指導の工夫をする。                  生徒指導の機能が生きる指導をする。</p> <p>(3)到達度を客観的に評価する工夫                  生徒が自分や友達を評価するとともに授業も評価する。「できた・わかった・やってみた」                  評価が学習の改善に生かされるようにする。                  目標に準拠した評価を行う。                  形成的・総括的評価を行う。                  生徒の姿を通して評価する。</p>
平成15・16年度	<p>テーマ 「学力」が向上するための授業づくりを目指して</p> <p>仮説 一人ひとりに応じたきめ細かな指導を工夫した授業を行うことで、学力が確実に向上するだろう。</p> <p>研究内容 方法 基本的には平成14年度と同様 それに加えて</p> <p>(2)一人ひとりに応じたきめ細かな指導の工夫                  生徒の育ち合う力を生かす指導                  選択授業の改善（発展的な学習と補充的な学習・生徒の思いや願いに応じた指導の工夫）                  単元終了時に生徒の意欲や獲得した力などを教師が評価する、単元の通信簿の工夫                  協力支援校(学区の小学校)との連携、                  R-timeの設定 チャレンジテスト、補充学習の実施                  外部講師の活用...ゲストティーチャーやボランティア等を活用した各教科の授業の工夫</p>

(3)研究体制(研究推進委員会・・・校長 教頭 教務 研修主任 教科指導 生徒指導 研修部員(2) 計8名)

研究推進委員会	指導計画の工夫 一人ひとりに応じたきめ細かな指導の工夫 到達度を客観的に評価する工夫	各教科主任 教科部会	全体研修会
	生徒の学習への取組 ・学習態度の確立 ・チャレンジテスト ・補充学習	学年学習担当 総合学習担当 学年会 特別活動主任 生徒指導担当	
	学習環境の整備		
	研究内容の発信	情報担当	

<協力支援校> 赤佐小学校・中瀬小学校

本年度から「生徒の育ち合う力を生かす」という考えを加えたため、生徒指導の改善の観点から、生徒指導担当を研究推進委員会のメンバーとした。

平成15年度の成果及び課題

1 研究の成果

県学力調査から確認できる成果 <数学科>

数学科の2年生では、平成14年度にTT、平成15年度に少人数の指導を実施した。少人数の指導の学習集団(学習コース)は、単元の学習内容に合わせて、学習方法別や学習課題別等で設定し、生徒が自分の思いや願いに応じて自己選択できるようにした。また単元の導入では、コースによってガイダンスの方法を変え、各コースを選択した生徒が単元の学習に、興味・関心を持って臨めるように工夫した。単元を通じて付けた力=目標は同じであり、コースによって学習の順序を入れ替える等の工夫も行った。その結果、1年の時に比べて、特に表現・処理の力が向上した。

<平成14年度の問題より>

問 題	到達度
$6 + 2 \times (-4)$	85.3
$\frac{1}{2}x = \frac{3}{5}x + 1$	50.0
$y = -\frac{3}{2}x$ のグラフを書く	52.9

<平成15年度の問題より>

問 題	到達度
$5 + 4 \times (-2)$	87.9
$\frac{1}{4} : \frac{1}{7} = 7 : x$	57.0
$y = -\frac{4}{5}x + 1$ のグラフを書く	64.9

定期テストから確認できる成果 <2年生>

平成14年度末より、定期テストにおいて「通過率」を設定した上でテスト問題を作成し、生徒の学力向上の確認の場とした。全教科で一人ひとりに応じたきめ細かな指導をしたり、「授業単元の小テスト チャレンジテスト・補充学習」という学習の流れを作ったりしたことにより、生徒は単元の基礎・基本を自然に理解し、自分の力とした。また繰り返し学習したことが、知識・理解(用語)をきちんと身に付けることにつながった。その結果、各教科における9点以下の生徒数が大きく減少した。特に少人数による学習方法別の指導を行っている数学科・英語科では、それが顕著であった。

<国語科>

分布幅	1期	2中	2期
50	0	2	0
40~49	66	40	57
30~39	90	76	81
20~29	37	53	45
10~19	19	28	22
0~9	2	14	7

<社会科>

分布幅	1期	2中	2期
50	0	0	1
40~49	26	69	63
30~39	86	75	84
20~29	61	34	36
10~19	24	25	16
0~9	17	8	10

<数学科>

分布幅	1期	2中	2期
50	1	13	0
40~49	14	53	43
30~39	46	41	75
20~29	69	34	49
10~19	45	40	28
0~9	39	32	16

<理科>

分布幅	1期	2中	2期
50	0	0	0
40~49	49	62	56
30~39	72	82	67
20~29	59	52	44
10~19	28	13	35
0~9	6	4	9

<英語科>

分布幅	1期	2中	2期
50	1	0	0
40~49	51	59	47
30~39	59	65	49
20~29	52	49	49
10~19	34	33	45
0~9	17	5	8

表中の1期、2中、2期は、それぞれ1学期期末テスト、2学期中間テスト、2学期期末テストの略である。

2 今後の課題

- ・少人数授業におけるコースの自己選択が等身大の選択になるような、教師の関わりの工夫
- ・「身に付けた力」を客観的に測るための評価方法の工夫、評価テストにおける問題や通過率の見直し
- ・一人ひとりの生徒に応じた指導を充実していくための、選択授業の改善、単元末に行う教師の生徒への評価、外部講師の活用の研究
- ・学力向上のための学区の小学校(2校)との連携
- ・少人数指導を多くの教科で実施していくための教員の加配

学力把握のための学校の取組について

- ・1時間ごと、単元ごと、学期ごとの診断的評価、形成的評価、総括的評価の実施
- ・通過率を設定した評価テストの実施・・・同じ観点における学力の向上の確認
- ・学期中途と学期末での「学習のアンケート」の実施・・・教科の学習に対する興味・関心と理解度の確認
- ・対象生徒(各教科3人)のノート、テスト、ワークシートなどの保存
- ・小学校段階からの学力の推移(小中連携会議で情報交換 学力調査テストの観点別推移の検討 等)

フロンティアスクールとしての成果の普及について

- ・平成14年11月8日 研究発表会を実施(研究紀要・年間指導計画集第1期分・活動案集)
- ・平成15年12月1日 地域・保護者向け研究発表会を実施(研究実践集)
- ・HP(<http://www.city.hamakita.shizuoka.jp/hokubuchu/>)に平成13・14・15年度の研究を公開
- ・平成16年 月日未定 地域・保護者向け研究発表会

次の項目ごとに、該当する個所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校				
【学校規模】	3学級以下	4~6学級	7~9学級			
	10~12学級	13~15学級	16学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T、Tによる指導	その他			
【研究教科】	国語	社会	数学	理科	外国語	音楽
	美術	技術・家庭		保健体育	その他	
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有		無		